

山行NO 山行NO. 1813-1
日時 2019.04.04(金)
山域 上越・平標山(1984m・1900mまで)
コース 松手山登山口6:30-鉄塔7:56-松手山-八合目10:01-標高約1900m
地点-鉄塔12:40-登山口13:27-中之条(泊)
標高差 上り 登山口約980m~引き返し点約1900m=約920m
下り //

04月04日(木)晴・晴

山岳スキー予定で、越後駒に向かった。

ただ、数日前から寒の戻りで新潟・長野方面は大雪だった。

先日の焼山・北面台地もそうだったが、春の大雪は始末が悪い。雪が重くスキーにならない上、雪崩のリスクが大きい。実際、その時、柵池・尾瀬燧ヶ岳・八方尾根で事故があり4名の方が亡くなっていた。

関越を飛ばし小出ICを下りた。奥只見シルバーラインは、18時以降通行止めになる。問題があったらその前に出ないと翌朝6時まで缶詰になる。敏速な行動・判断力が必要だ。

18kmの長い長いシルバーラインのトンネルを通過し、途中で右折して越後駒の登山口の石抱橋に着いた。しかし、現実には厳しいものだった。

地元の方の話では今回、1mの積雪があったという。橋は重い雪で覆われていた。勿論、トレースはない。先日の乗鞍岳もそうだったが、この雪ではスキーにならないし、駒までとても行き着くことは出来ないだろう。潔く諦めた。決めればユックリは出来ない。18時前に出ないとマズイ。飛ばしに飛ばして脱出。関越トンネルを越えて、谷川岳BPに入った。

谷川岳の雪も同じだった。スキーは止め登山に切り替える。久しぶりに西黒尾根と考えたが、上部の急斜面を考えると、雪崩のリスクが大きかった。

雪崩事故は避けたい。雪崩事故は当事者の判断である程度は避けられる。ここは雪崩リスクが少ない山域を選択すべきだった。結論は、平標山を選んだ。



銀山平

04月05日(金)晴・上部強風(春一番だった)

早朝、BPを出た。料金はなし。ここのトイレは、ウオシュレットでなかった。

水上から赤谷ダムへ山越えのつもりだったが、道路表示がイマイチで結局、関越経由だった。

三国峠から火打峠に下る。懐かしい。

ここは97年4月以来だった。松手山登山口から出発。数日前のワカン跡があった。



松手山尾根

出だしから物凄い急登だった。
前方に大きな鉄塔が見えた。例の巨大鉄塔だった。
振り返れば苗場スキー場が広がっていた。ただ、既に終了。雪がまだタツプリあるが残念。
深い「あんこ雪」に難儀しながら上る。こんな「こてこて雪」は珍しい。
ひと上りで巨大鉄塔着。ここでアイゼンを履いた。
松手山に達すると素晴らしい展望が広がった。右手に巨大な雪庇があった。
今にも落ちそうだった。





やや右の奥が頂上

松手山から少し下る。

下りきると厳しい上り。相変わらず潜りまくる雪に苦勞する。ようやく八合着。

風が出て来た。九合に達すると風は更に強く、暴力的になった。下山して判明したが、この日、「春一番」が吹いたという。凄い風の訳だ。

頂上まで30分。標高約1900mまで上ったが、余りの風にここで断念。山はまだ冬だった。踵を返す。

目を凝らすと誰か1名上って来た。七合辺りですれ違った。中年の男性だった。挨拶はしたが、「ラッセルの礼」はなかった。最近の登山者は「山の仁義」を知らない。

グングン下り風下で、本日初の大休憩。お湯割りの梅酒が美味しかった。

天気は相変わらず良かった。正面には苗場山が長い裾野を広げ、左に赤倉山が尖がっていた。

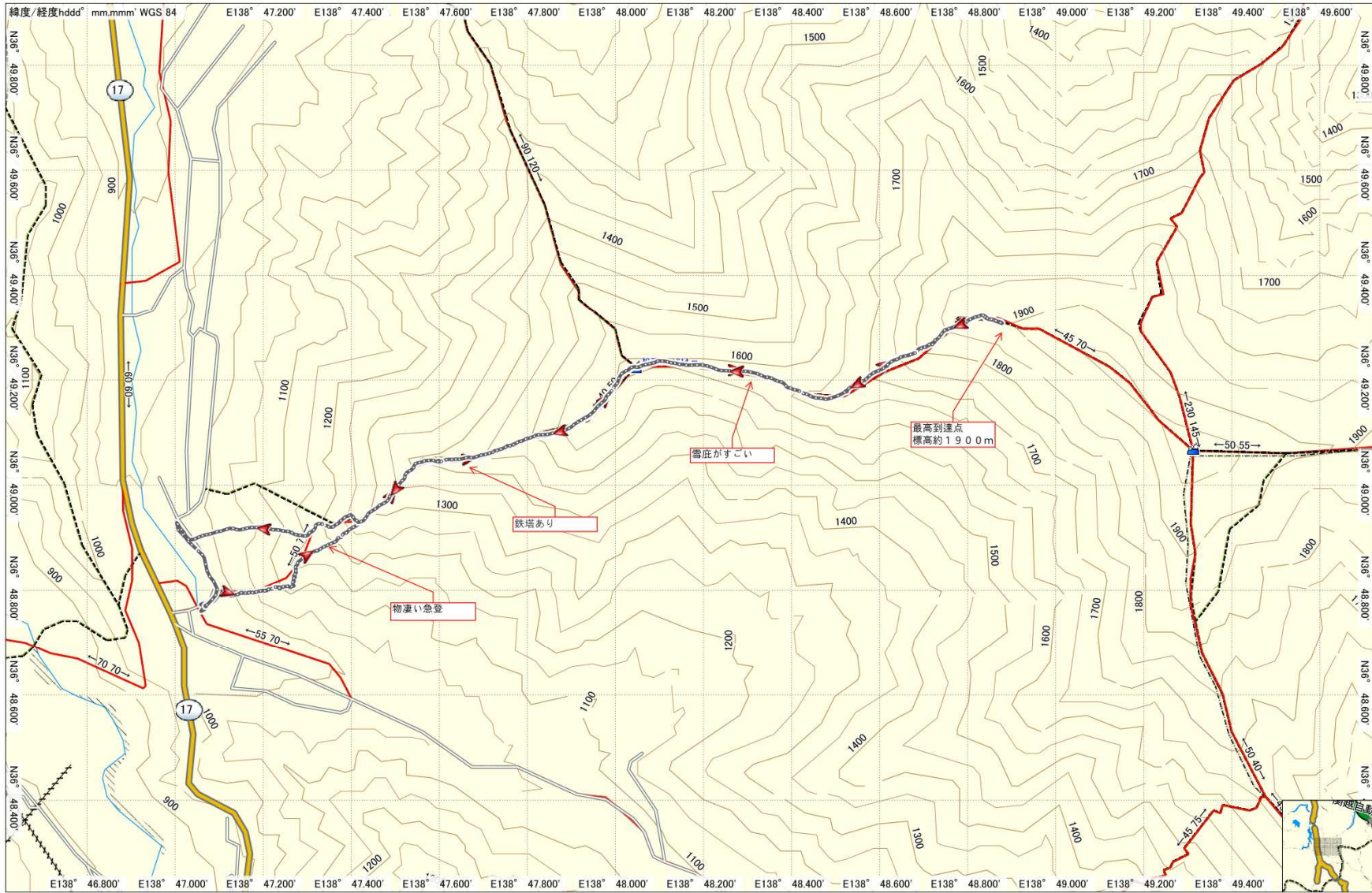
山を仰ぐと、何と先ほどの輩が八合付近で引き返し下って来た。

強風が更に進んだかも知れない。

「あんこ雪」に足を取られながら登山口着。今回はもう雪はウンザリで、無雪の群馬に向かった。



八合から俯瞰



Japan Topo 10M Plus V3
©2014 Mapbox Co. Ltd 2014
Garmin Corporation 1999-2014

2019/04/07 7:46:15



GARMIN



1997年の記録

山行報告書

山行名	春山訓練・山スキーと登山		報告者	大根田元男		
山名	平標山(たいらっぴょう・1,984m)					
コースタイム	4・13	起床4:30 民宿『やまご』出発 5:40 ⇨平標駐車場出発 7:00 ~登山口 8:00				
天気		平標小屋上 9:45 ~平標山10:35/11:10 ~松手山12:20 ~下山口13:55				
標高差	△S登山口 ~T 平標山	≒ 987m	体力度	1・2・3・④・5・6		
	▼T平標山 ~G 登山口	≒ 987m	技術度	1・2・③・4・5・6		
走行距離	~	≒ Km	展望度	1・2・3・4・5・⑥		
参加者	後藤	50	最高の山スキーができた	来生	48	普通の山歩きでは体験できない
	大根田	60	尾根続きの展望は素晴らしい	河野仁	34	疲れたがとても満足
	高岡	59	雪庇の上を歩行できた	加藤	48	山スキーを始めて本当に良かった
第3日目	<p>民宿の叔母さんの見送りで出発。塩沢石打ICから関越自動車道に入り、湯沢ICから17号線を通り平標山登山口へ。この間の山々はスキー場ばかり。さすが雪国と感じいるが山全体が痛んでしまふのでは・・・と心配になる程、数多くスキー場がある。国道と別れて登山道を少し入った道端に10車輻程車が止めてある。</p> <p>(無風・快晴)</p> <p>これより先車が行けないので、私達の車もここに駐車し登山開始。他のパーティも登山の準備をしており、仲間がいると思うと心強い気がする。雪道ではあるが所々雪のない個所があり、帰路のスキー組はスキーの履き替えが大変になるかな?</p> <p>河内沢に添った平標山登山口迄の道のりは長かった。登山道を少し登ると深雪で道がわからなくなり藪漕ぎの登りになってきた。ブナの樹林帯の尾根を上がるに従い、雑木が少なくなり歩きやすくなってきて助かる。平標山から仙ノ倉山方向の雪原は空の青さとマッチしていて素晴らしい景観に全員で暫し見とれる。一息入れて頂上を目指す。途中、軽快な足取りの下山者とすれ違い羨ましい思いがした。</p> <p>平標山頂上には10人程登山者が休んでいた。展望は360度。苗場山、浅間山、特に尾根伝いに見られる谷川岳方向の景色は良い。昨日登ってきた巻機山を遠望できて感激。立派な山並みである。昼食後は大根田・高岡・来生の三人が山スキー組と別行動となり松手山元橋道のコースを下る。松手山手前の雪庇は5m以上の厚みで張り出していて凄い迫力。この尾根道の横を慎重に通過するが気分が良いものではない。巨大鉄塔からの下りは道が分からず、先に下った人の足跡を頼りにブナ林の中に出てくる雪沢の急傾斜をピッケル</p>					

を使って下る。途中雪の大きな固まりが落下してきて、大木の陰に身を寄せて助かる。先に着いているスキー組と無線連絡をとりながらの下山で、舗装道路に出た所で迎えに来てくれた車のスキー組と合流する。

山スキー隊

記録・河野仁美

身支度を整えて出発する。暫くは平坦な林道歩き。登山口で一息入れ、いよいよ登りにかかる。暫く登ると笹の生い茂った急斜面をやっと登り上げ尾根に出た。ブナ林の尾根だが、未だ枯れ木で左右両方の眺めが良く、気持ちの良い尾根歩きだった。しかし勾配がきつくて登るのに苦労したのは私だけだろうか。昨日の巻機山スキーでの筋肉痛がこたえて、なかなか足が前に出なかった。一番若い筈の私が一番体力がなくて情けなかった。

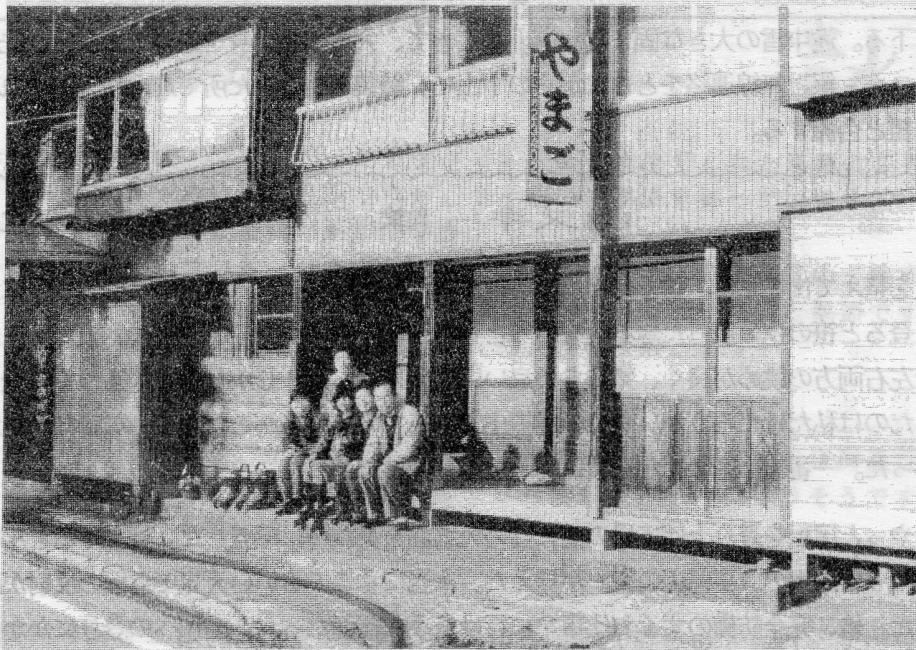
然し、やっと尾根を登り上げて目の前に雪の大斜面を見た時は感激した。見上げると平標山頂、下には赤い屋根の『平標山の家』が見えた。本当にすこぶるいい天気で雪面の反射が顔を照りつけた。皆、完全防備のすぐお仕事？に行けそうな覆面だった。山頂への登りにかかった。ここでも私は置いて行かれてしまった。それにしても皆さんの体力には圧倒されるばかりです。

平標の山頂に立った。最高の眺めだ。360度どちらを見ても山また山の繋がりだった。昨日登った巻機山、谷川岳も良く見えた。上越の山の懐の深さを実感した。眺めていると丁度ヤカイ沢からテレマークで下る人を見つけた。急傾斜の雪面をシュワー、シュワーと方膝を交互に曲げて滑っている。お〜っとジャンプターンだ。凄い！綺麗に決まった。すごいなあ〜。

徒歩隊とスキー隊に別れてCL・加藤・私は下山にかかる。昨年テレマークを始めたと言う方も一緒に下る事になった。テレマークターンが決まっていかなか上手な方だった。先ずは小屋めかけて大斜面を下った。だだっぴろい雪面を思い思いのシュプールで下った。所々クレバスのようなものがあり、スキーのコントロールを誤ると落ちそうにある。小屋迄下ると次は樹林帯に入った。長い長いトラバースを斜滑降で下った。そして樹の間を縫うように下へ下へ滑って行った。途中で足が疲れ小休止。一口のビールが美味しい！いつも苦労して背負ってくる加藤は口にせず飲んでばかりの私が申しわけない。

そして暫く下ると崖っぷちに出たのでスキーを脱いでつぼ足で歩いた。暫く行くと既に登山口に戻っていた。後は林道に戻るのみ。然し今年は雪が少ないせいか、林道の所々で雪が溶けて土が剥き出しになっていて、スキーを脱いだりつけたりの繰り返しで苦労した。

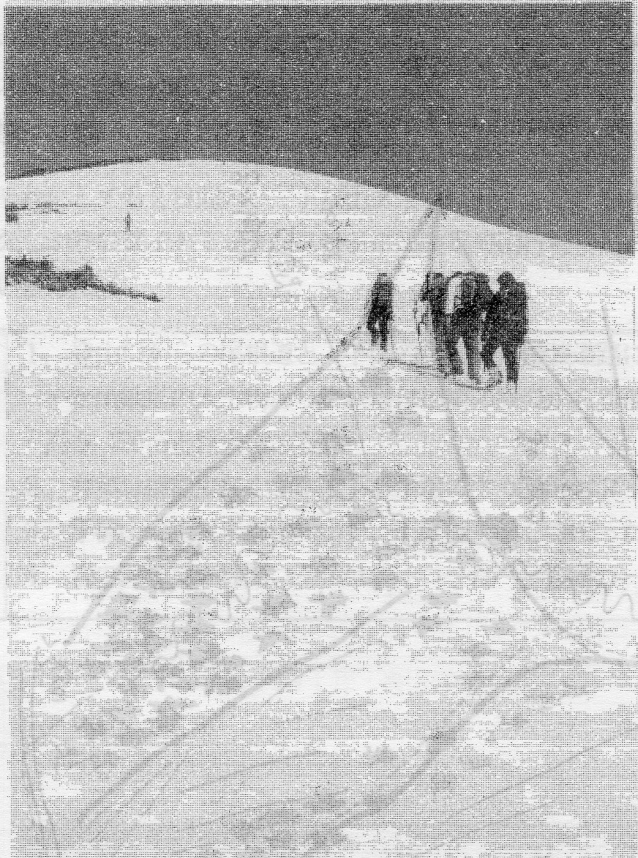
途中私と加藤は林道から下の樹林帯へ下りた。自然の中をスキーで歩き回れるのは、殊の外楽しい。然し、調子に乗って下っていくと川っぷちに出てしまったので、慌てて林道迄登り返した。13:00 ようやく車に戻り、先に着いていたCLが迎えてくれた。ゲレンデのような広い所や、赤い布印がついているルートなら安心だが、今回のようにルートファインディングを要



↑ 民宿「やまこ」の例の縁復りで憩う

↓ 平標山の美しいブナ林を登る





←
平標山の夢のような大斜面を登り滑った
実際の山頂はもうひとつ上



する所は、やっぱりCLのような山に熟達した人でないと、とんでもない所へ下ってしまう可能性が大きいと思った。その点今回はとても安心してスキーを楽しむ事ができた。

それにしても2日間のハードな山スキーは、私の足の筋肉をコッチコッチに痛れさせた。然し久しぶりのダイナミックなスキーに大満足の山行だった。今回も色々お世話になり有難うございました。

- その他記述
1. 登山口からの尾根道と、下山の中腹から舗装道路に出るまでブナの原生林でよい。一か所鉄塔の人工物あり。鉄塔は柏崎の原発から首都圏に電力を送る送電線の鉄塔。高さ 120mと巨大である。
 2. 今年は積雪少なく、本来下る予定のヤカイ沢はブッシュが多く変更した。
 3. 平標山の家は未だ雪の中で、丁度掘り出し中だった。
 4. 岩の沢のブナ林間コースはサイコ〜だ〜。定番コースにしたい。

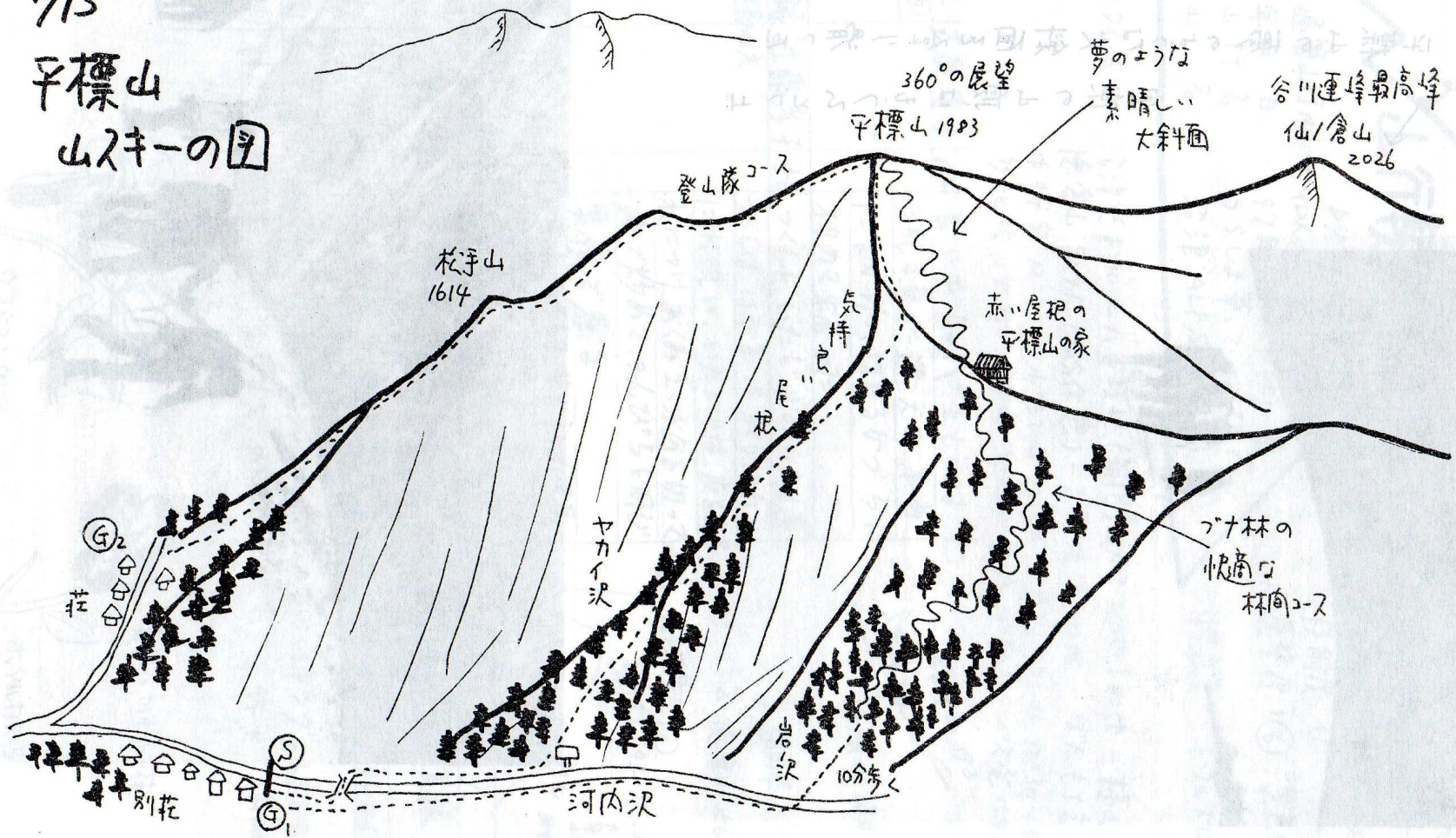


↑ 平標山 山頂にて 左後方に昨日の巻様山が見える

4/13

平標山 山スキーの⑦

前日登った巻根山が見えた



山行NO	山行NO. 1813-2	文・加藤	写真・後藤
日時	2019.04.04.06(土) 快晴・上部風あり		
山域	群馬・中之条=高田山(1212m)		
コース	駒岩集落発6:52-鳥居7:36-水場7:57-石尊山8:23-高田山8:57 -水場9:47~10:16-鳥居-駒岩集落10:43-帰静		
標高差	上り 登山口約500m~高田山1212=約712m 下り //		

新潟の「ウンザリ雪山」から撤退し群馬に流れて来た。
群馬はスッキリ晴れ渡り、陽光は眩しく桜は満開。雪は皆無だった。
以前寄ったスーパーに記憶を頼りに到着。このスーパーは、田舎だが大きなもので、刺身など生鮮食料も豊富に置いてあった。

おまけ登山は何処がいいか・・・地図とスマホを開きながら色々模索。
昨日は悪雪で苦勞をしたから、今日はスッキリと雪なしの里山がいいと決まりです。
そして群馬・中之条中心街と四万温泉の中間に位置する山で、雄大な山容を持つ山。頂上からの展望は360°ヤセ尾根の急登に岩場もあり・・・「これだ!」と、CLの決定に「何やら私好みの山だぞ」と、ワクワクしながら高田山に移動する。



駒岩登山口は駐車場はないが公民館を利用できた。
駒岩集落中央の「岡田石材店」が登山口だった。ただ、車道に標識がないので、分かり難い。
人家へ行く道?と思わせる登山道に入っていくと「ヤマビル注意!」の看板あり。ヒル対策として塩水スプレーが置いてあったが今の時期は大丈夫なのか3本とも空だった。

今は昼だが「ヒル」には出会いたくない。
うっそうとした杉林の道は成程ヒルが好みそう。落葉が積もった両脇は避けて、なるべく裸地になっている真ん中を歩くが、足元がムズムズしてくる。
ダラダラした林道から、山道に入ると直ぐに針葉樹林の中に石の鳥居があり一礼してから裏手の急登に取り付いた。

昨日の平標山に勝るとも劣らない傾斜のある急な斜面はジグザグにきってあり、
冬枯れの雑木林が明るい陽ざしを浴びて輝くように美しい。紅葉の頃はさぞ凄いだろうなと思わせる。
石尊山(標高1004m)への更に急な道を登ると、山頂は岩塊の上に小さな石祠が祭ってあった。
山はその名の通り、大きな岩壁に守られていた。



美しい自然林

夏の水場



石尊山

谷川連峰遠望

その後ろには昨日登った平標山からの連なりの山々の展望が広がっていた。
 暫し山座同定。平標は、一番左に見えた。
 汗を拭き、これからは痩せた稜線を辿るアップダウンの尾根歩き。
 情報通りの左右が切れ落ちた直下降、直登の木の根、岩をつかんでの重心の移動だ。そう言えば居
 合わせた住民が言ってたっけ。「落ちた人がいる」って。

此处で足を滑らせたらやっぱひとたまりもないだろうねえ・・・と慎重になる。
 だが行程に変化があって面白くて歩くのが楽しい！

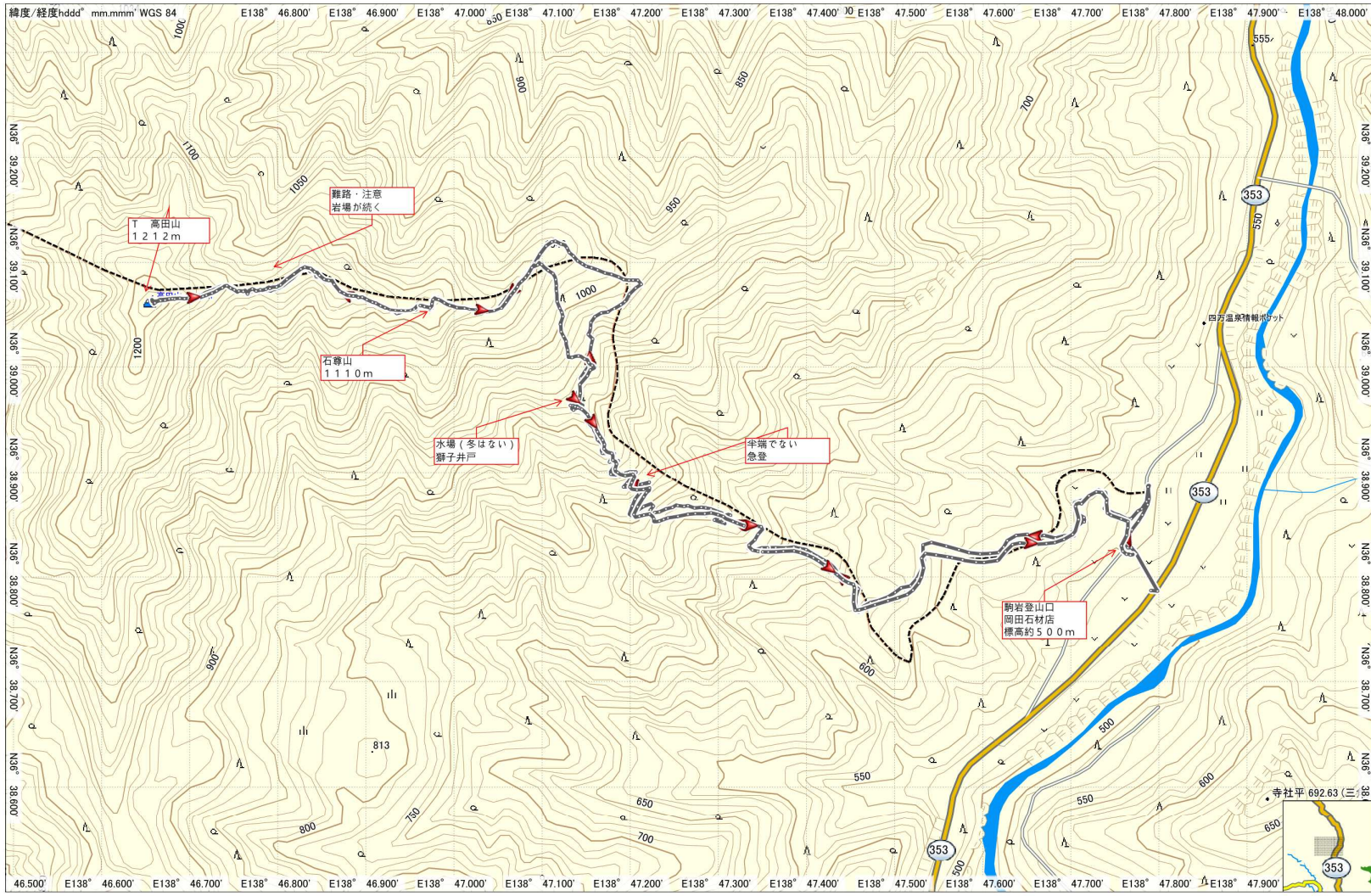


1212mの山頂は一等三角点があった。遠くに見える平標山には雪煙があがっている。今日も風が強いのだろう。此処も頭上では風が唸り声をあげて時折突風が身体をよぎっている。下りの心配がなくなる石尊山まで行ってからゆっくりしようと言う事で、そそくさと下山開始。痩せ尾根のアップダウンを通り越し、石尊山へのショートカットで、獅子井戸の水場の分岐点まで下ってやっと一安心という所で腰を落ち着けた。勿論ビヤで乾杯！私はチョッピリワインを一口、二口頂戴する。

標高は低い山名は平凡で優しいが、ところがどっこい「山椒は小粒でもピリリッと辛い」。なかなか手強い里山だった。風がないと春そのもの。ポカポカと温かく日だまりの中で、山への満足感に浸りながらこのひと時を楽しむ。この年齢になるとこういう山も又いい。あとは駐車場まで一下り。ジグザグの折れる角では、「ジャンピングターン！」声をあげながらスキーのターンの真似をする。足を揃えてピョンと踵をかえす。中高年が童心にかえった一日でした。







Japan Topo 10M Plus V3
 GenesMap® Co., Ltd. 2014
 Genes Corporation 1997-2014

2019/04/07 7:46:15

2019/04/07

